

定期作況報告

令和2年10月
(10月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年より低く、最低気温はやや高く、平均気温はやや低かった。降水量は平年より極めて多く（平年比210%）、日照時間は平年より少なかった（平年比52%）。

10月上旬：最高気温は平年並で、最低気温、平均気温とも平年よりやや高かった。降水量、日照時間も平年よりやや少なかった（各々、平年比73%、72%）。

10月中旬：最高気温は平年より高く、最低気温はやや高く、平均気温はやや高かった。降水量、日照時間も平年並であった（各々、平年比90%、117%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年並で、降水量、日照時間も平年並であった（各々、平年比119%、80%）。

気 象 表

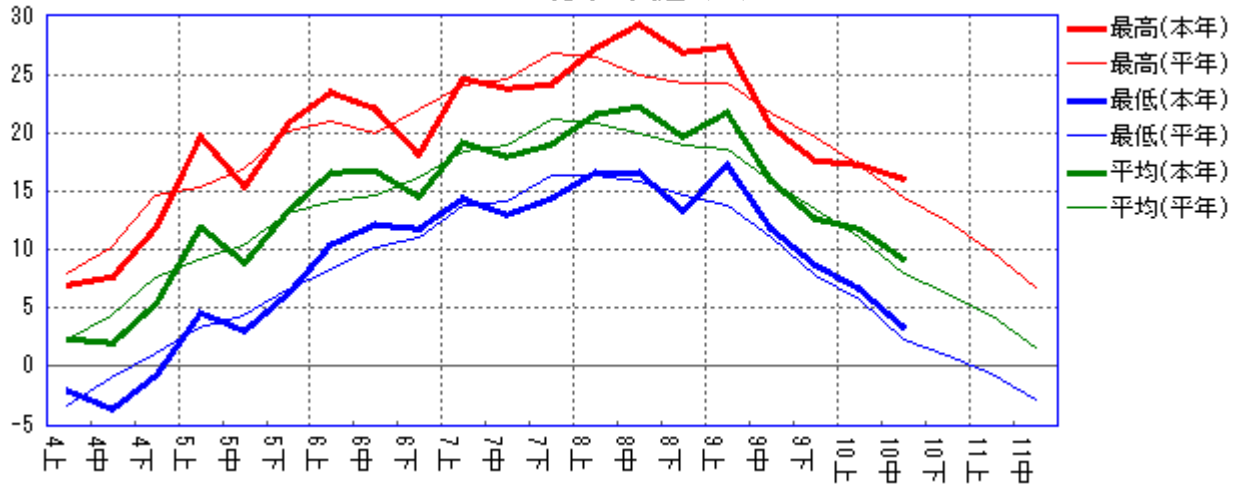
月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	12.7	13.4	-0.7	17.6	19.7	-2.1	8.6	7.8	0.8
10月 上旬	11.7	11.1	0.6	17.3	17.2	0.1	6.7	5.7	1.0
10月 中旬	9.2	8.0	1.2	16.1	14.5	1.6	3.3	2.3	1.0

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	51.5	24.5	27.0	29.9	57.3	-27.4
10月 上旬	24.5	33.6	-9.1	41.2	56.9	-15.7
10月 中旬	21.5	23.8	-2.3	62.0	53.2	8.8

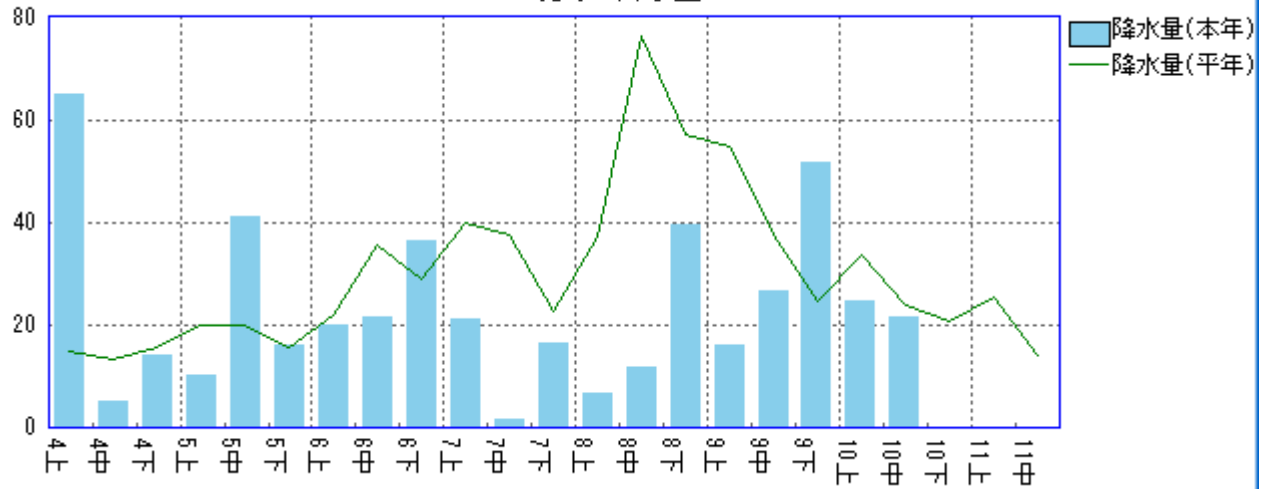
注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。

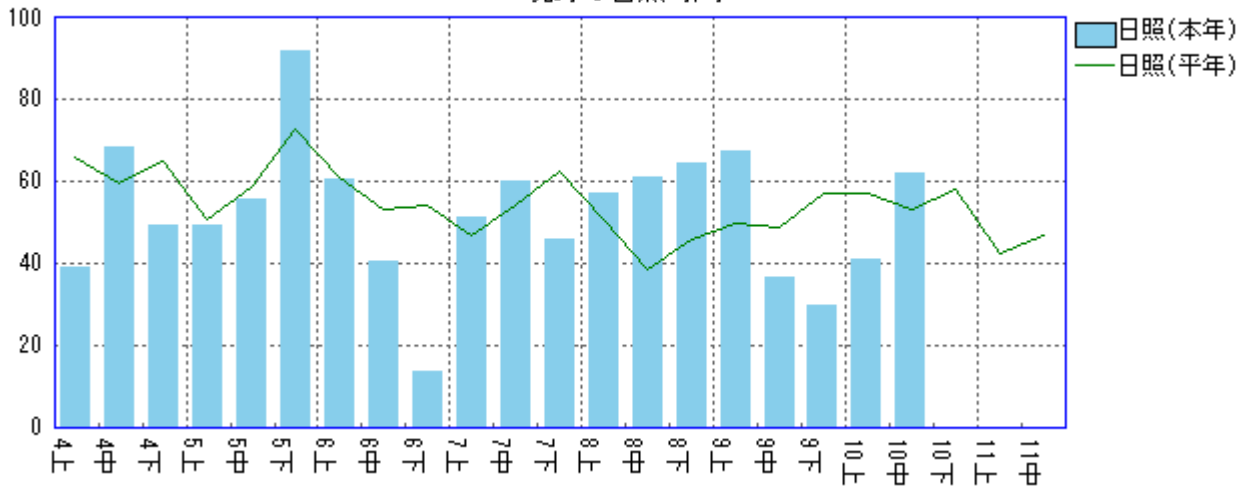
境野の気温 (°C)



境野の降水量 (mm)



境野の日照時間(h)



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用) 作況: 良

事由: 収穫期は平年並の9月24日であった。収穫時の稈長は平年より9cm長く、子実の熟度は黄熟初期と平年並であった。乾物茎葉重は平年より96kg/10a、乾物雌穂重は平年より92kg/10a多く、乾物総重および推定TDN収量は平年比110%および108%と多かった。総体の乾物率は平年より1.4ポイント高かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.24	9.24	0
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期	-
稈長(cm) (9月20日)	263	254	9
生総重(kg/10a)	6518	6210	308
乾物茎葉重(kg/10a)	961	865	96
乾物雌穂重(kg/10a)	1078	986	92
乾物総重(kg/10a)	2040	1851	189
同上平年比(%)	110	100	10
推定TDN収量(kg/10a)	1476	1369	107
同上平年比(%)	108	100	8
総体の乾物率(%)	31.3	29.9	1.4
乾雌穂重割合(%)	55.3	53.4	1.9
有効雌穂割合(%)	97.0	99.7	△2.7

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆

作 況：平年並

事 由：成熟期は平年より5日早い9月21日であった。主茎長と分枝数は平年並で、主茎節数は平年より少なかった。着莢数は平年より多く、一莢内粒数は平年よりやや少なかった。子実重は平年比99%であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.21	9.26	△5
主茎長(cm) (成熟期)	64.7	65.2	△0.5
主茎節数(節) (成熟期)	9.3	10.6	△1.3
分枝数(本/株) (成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数(個/株) (成熟期)	80.2	68.6	12
一莢内粒数	1.79	1.95	△0.16
子実重(kg/10a)	348	351	△3
同上平年比(%)	99	100	△1

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 小豆

作況：不良

事由：成熟期は平年と比べ「サホロショウズ」で20日、「エリモショウズ」で26日早く、登熟期間は極端に短かった。両品種とも、分枝数は平年より多かったが、主茎長、主茎節数は平年より少なかった。「サホロショウズ」の着莢数はやや多かったが、一莢内粒数は平年より少なく、「エリモショウズ」の着莢数および一莢内粒数は平年並であった。百粒重は平年より軽いと見込まれ、子実重は平年比79～87%と低収であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			きたろまん(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.8	9.28	△20	9.8	10.4	△26	9.6	9.30	△24
主茎長(cm) (成熟期)	68.0	74.8	△6.8	61.6	66.1	△4.5	58.8	70.2	△11.4
主茎節数(節) (成熟期)	12.4	13.3	△0.9	12.9	13.7	△0.8	11.7	13.0	△1.3
分枝数(本/株) (成熟期)	5.6	3.4	2.2	6.8	3.5	3.3	5.0	4.1	0.9
着莢数(莢/株) (成熟期)	57.5	51.5	6.0	52.6	53.1	△0.5	49.2	49.6	△0.4
一莢内粒数	5.05	5.99	△0.94	6.51	6.49	0.02	5.90	6.53	△0.63
子実重(kg/10a)	321	371	△50	312	396	△84	316	373	△57
同上平年比(%)	87	100	△13	79	100	△21	85	100	△15

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は、前6か年(平成26～令和元年)の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

4) 菜豆 作況：良

事由：平年と比較して着莢数はやや多く、一莢内粒数は同等であった。子実重は平年比 108%と多収であった。百粒重は平年並、成熟期前後の降雨が少なかったため色流れ粒が見られず、屑粒率は平年より低かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
着莢数(莢/株) (成熟期)	21.3	20.1	1.2
一莢内粒数	2.76	2.75	0.01
子実重(kg/10a)	323	299	24
同上平年比(%)	108	100	8
百粒重(g)	66.0	65.6	0.4
屑粒率(%)	1.2	14.0	△12.8

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]

5) ばれいしょ 作況：やや良

事由：「コナユタカ」の枯ちよう期は平年より7日早い10月9日であった。上いも数は平年よりも少なかったものの、上いも平均重が平年より大きく、上いも重は平年比111%と多かった。一方で、でん粉価は低かったため、でん粉重は平年並であった。

以上のことから、前報の「男爵薯」とあわせ、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期(月.日)	9.1	8.31	1	10.9	10.16	△7
上いも数(個/株)	8.5	11.0	△2.5	7.1	9.0	△1.9
上いも平均重(g)	139	95	44	227	159	68
上いも重(kg/10a)	5182	4604	578	7041	6333	708
同上平年比(%)	113	100	13	111	100	11
でん粉価(kg/10)	14.1	15.6	△1.5	20.0	22.1	△2.1
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1338	1338	0
同上平年比(%)	—	—	—	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

6) てんさい 作 況：やや良

事 由：収穫は、平年より1日早い10月19日に行った。この一か月間は気温、降水量とも平年並に経過したため、根部の肥大は順調に進んだ。移植栽培の2品種の糖量は平年並から多く、直播栽培の糖量は、平年よりやや多かった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	4250	4483	△233	5330	5448	△118	4850	4879	△29
根重 (kg/10a) (10月20日)	8560	7675	885	6990	7132	△142	6840	6521	319
根中糖分 (%) (10月20日)	17.75	18.04	△0.29	18.65	18.91	△0.26	18.02	17.96	0.06
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1520	1382	138	1303	1345	△42	1232	1167	65

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

7) 牧 草 (チモシー) 作 況：やや不良

事 由：3番草の収穫は平年より3日遅い10月6日に行った。2番草刈取後から9月上旬まで続いた高温、干ばつ傾向のため停滞した3番草の生育は、その後も回復に至らず、3番草乾物収量は平年比62%と低かった。1～3番草の合計乾物収量の平年比は92%と平年を8%下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10. 6	10. 3	3
病害罹病程度	3番草	3.0	2.9	0.1
草丈(cm)	3番草	34	41	△7
生草収量 (kg/10a)	3番草	321	508	△187
	1～3番草合計	3,441	3,919	△478
乾物率 (%)	3番草	28.3	29.0	△0.7
乾物収量 (kg/10a)	3番草	91	146	△55
	1～3番草合計	852	930	△78
同上平年比 (%)	3番草	62	100	△38
	1～3番草合計	92	100	△8

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。